



映画 「二十四の瞳」

一人の女性教師と12人の教え子たちの交流を描いた名作を高峰秀子主演・木下恵介監督で映画化。驚異的な大ヒットを記録し、小豆島の名も一躍全国に知られ、多くの観光客が訪れるようになりました。

戦争は人類に不幸しかもたらさない……。小豆島出身の作家・壺井栄が『二十四の瞳』に込めた平和への願いです。一人の女性教師と12人の子どもたちによる美しく素朴な物語は、ここ小豆島で映画化され、今なお愛されています。心のふれあいと共に描かれたのは、戦争の時代を懸命に生きた人々の姿。「人の子ならばどの子にもしあわせあれ」と唄われ、二十四の瞳は小豆島の空を眺め、祈ったのでした。その後も数々の作品が小豆島を舞台に映画・ドラマ化。愛と平和を象徴する風土から名作が生まれています。

平和を世界へ 発信する島



写真上：名画の世界を今に伝える「二十四の瞳映画村」。

写真下：「岬の分教場」は築100年以上の木造校舎で、小説『二十四の瞳』の舞台となってから一躍有名に。教育の原点として、全国から教職員が訪れます。

わたしは、
平和を物語り、
世界へ届ける。



壺井栄 (1899~1967) / 明治32年、小豆郡坂手村 (現小豆島町坂手) 生まれ。町内には栄の文学碑や夫・壺井繁治の詩碑、プロレタリア作家・黒島伝治の文学碑があります。



「二十四の瞳」(1954年) 監督/木下恵介 写真提供/松竹